

黄金町バザール 2021

アーティスト資料

画像利用に関して

- ・ 本プレスリリースに使用した画像は、記事掲載用としてデジタルデータでのお貸出しが可能です。
ご希望の場合は黄金町エリアマネジメントセンター広報宛にご一報ください。
- ・ ご使用にあたっては、必ずクレジットをご記載ください。
- ・ 写真のトリミングおよび文字被せはご遠慮ください。
- ・ ご掲載いただいた記事の提供にご協力いただけますと幸いです。

<プレスリリース / ご取材 / 画像利用に関するお問合せ>

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター（広報担当 神田、小田原）

Tel | 045-261-5467 Mail | pr@koganecho.net

安部寿紗

ABE Kazusa

【黄金町 AIR】



1984年兵庫県生まれ。2019年より黄金町AIRに参加。主にお米を主題として、お米にまつわる伝承やお米そのものの生態に自分の内面を投影させた作品を制作している。日本各地に伝わる伝承をリサーチし、言語の持つ意味を取り入れたインスタレーション作品や自身の身体を使ったパフォーマンス作品を発表している。

主な展覧会に「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川 2021」（金谷公民館みんくる、静岡、2021年）、「ショーケースギャラリー安部寿紗展」（横浜市民ギャラリーあざみ野、神奈川、2021年）。



《心臓をくばる》2018年

阿部智子

ABE Tomoko

【黄金町 AIR】



鳥取県生まれ。2020年東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程修了。同年より黄金町AIRに参加。今ここにある日常の世界と見ることでない異なる世界との中間の領域「中空」に絵画が存在し、絵画によってあちらの世界とこちらの世界の何かを伝播したり、交換を繰り返したり、時には遮断したりしているというコンセプトに基づいて制作を行なっている。生命が生きるうでで行われる循環や交換の意味を追求し、絵画やインスタレーションで表現する。

主な展覧会に「mother—私たちはどこからきたのですか？私たちはだれですか？私たちはどこにゆくのか？」（ギャラリーfu、神奈川、2021年）、「東京造形大学学位審査展」（東京造形大学付属美術館、東京、2019年）。



《Swop F4-2》2020年

阿川大樹

AGAWA Taiju

【黄金町 AIR】



1954年東京都生まれ。東京大学在学中、野田秀樹らと劇団「夢の遊眠社」を設立し座付き作曲家として活動。半導体技術者を経て、2005年に『覇権の標的』で小説家デビュー。2009年より黄金町AIRに参加。地元合唱団への楽曲提供、黄金町の歴史を題材とした小説『横浜黄金町パフィー通り』（徳間書店）などを発刊。

主な著書に、『終電の神様』（実業之日本社文庫、2017年）、『インパウンド』（小学館、2012年）、『D列車でいこう』（徳間文庫、2010年）。

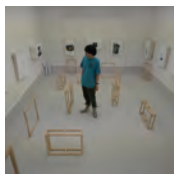


《横浜黄金町パフィー通り》2014年

千々和佑樹

CHIJIWA Yuki

【黄金町 AIR】



1991年大阪府生まれ。2012年東京造形大学インダストリアルデザイン専攻入学後、絵画専攻へ転科、2017年卒業。2019年より黄金町AIRに参加。14をきっかけに、また、14に従いつつ絵画や物体を作りインスタレーションを行う。

主な展覧会に「群馬青年ビエンナーレ 2021」（群馬県立近代美術館、群馬、2021年）、「Between」（黄金町エリア、横浜、2019年）。



《怠惰なる節制のうつろへ》2020年

Photo : Yasuyuki Kasagi

チェ・ヨンファン

CHOI Younghwan

【推薦】

推薦者：ソ・ジュノ（SPACE O'NEWWALL ディレクター）



1978年堤川市（韓国）生まれ、ソウル（韓国）拠点。2007年ソウル国立大学絵画専攻卒業、2010年シカゴ美術館附属美術大学でMFAを取得。その後2年間米国でアーティストとして活動した後韓国に戻り、2021年ソウル国立大学絵画専攻芸術学博士後期課程を修了した。社会的な変化の影響を受けたコミュニティの社会との関係性のなかで、コミュニティにおける個人の重要性に注目し、集団とその意識によって個人が傷つけられる状況に焦点をあてる。個人の権利とコミュニティのバランスをアートの実践を通して追求している。

主な展覧会に「発生の場／Ignition Field」（佐賀大学美術館、佐賀、2020年）、「Where Do You Belong To?」（Boan Art Space、ソウル、韓国、2018年）。

ラルフ・ルムブレス

Ralph C. LUMBRES

【黄金町 AIR】



1990年カガヤン・デ・オロ（フィリピン）生まれ。フィリピン大学美術学部彫刻専攻卒業。持続可能性や回復力について問いかけるプロジェクトを行い、科学とまちづくりをアートに組み合わせることに関心を向ける。東南アジアにおける環境や共同体の弾性をしなやかにするアート・プロジェクトを行う領域横断的なコレクティブ「プロジェクトス・アーティスト・コミュニティ」を立ち上げる。国際交流基金「HANDS！プロジェクト」フェロー。

主な展覧会に「Loei Art Fes 2021」（ルーイ、タイ、2021年）、「DA Fest [7] International Digital Art Festival」（Digital Art Festival Sofia、チェコセンター、ブルガリア、2019年）。

ラギル・ドウィ・プトラ

Ragil DWI PUTRA

【公募】



1992年インドネシア・サラティガ生まれ、現在はブカシとジャカルタを拠点として活動。2016年ジャカルタ芸術大学卒業。政治的・社会的な問題に関心を向けるために、空間、アイデンティティ、歴史の抽象的な概念と想像力を融合させる。私たちが今を生きるための方法として、過去を振り返り未来を想像することを試みている。コラボレーションと参加に重点を置いて、パフォーマンス、インスタレーション、映像を制作している。

主な展覧会に「Road to Jakarta Biennale」（インドネシア、2019年）、「Facing The Others」（Rubanah Underground Hub、インドネシア、2019年）。

東地雄一郎

HIGASHIJI Yuichiro

【黄金町 AIR】

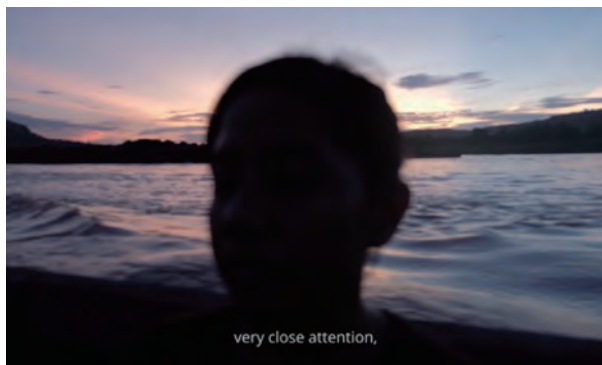


1983年愛知県生まれ。岡山理科大学生物地球システム学部卒業。2019年より黄金町 AIR に参加。写真というメディアの持つ特性の表層をなぞるような手法を用い、人々の中に漠然とある意識を顕在化させ、気づきを与えることを試みる。作品のコンセプトに基づく制作過程から作品展示までの一連の作業の全てが重要な意味を持ち、作品が作品として展示されることについて追求している。

主な展覧会に「1/3 distance from R-site [1]」（黄金町エリア、横浜、2020年）、「A = A ≠ A (building)」（KOBÉ819GALLERY、神戸、2019年）。



《What Are We Fighting for?》2020年



《Sa Pagitan 1: Mekong River (A Series of Site-Specific Readings of "Lines in the Mind, Not in the World" by Donella Meadows)》2019年



《Messages from The Bottom》2021年

Photo: Aryo Fazrien



《ルーシーの骨の60%Vol.10 ～なにかとなにかの間に名前をつける。～》2019年

Photo : © 2019 studio wo

平山好哉

HIRAYAMA Yoshiya

【黄金町 AIR】



1984年横浜市生まれ。2017年カールスルーエ州立ファインアート・アカデミー卒業。2018年より黄金町AIRに参加。映像、音、彫刻といった異なるメディアを複合させた総合芸術的な表現活動を行う。彫刻の制作によって得た造形感覚を頼りにしながら多様なメディアを用いた実験的な作品を制作している。近年は、音と映像を中心として状況や環境によって変化するインスタレーションを発表している。

主な展覧会に「AKAI NU AGATA」(PIN-UP、沖縄、2020年)、「OOO Object Oriented Ontology」(クンストハレ バーゼル、スイス、2018年)。



《Space Mehl》2017年

レイモンド・ホラチェック

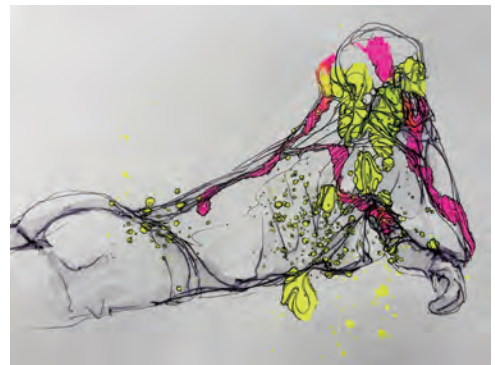
Raymond HORACEK

【黄金町 AIR】



1980年マサチューセッツ州(アメリカ)生まれ。2002年ロードアイランド・スクール・オブ・デザインを卒業。アメリカとフランスでプロダクトデザインを学ぶ。2019年より黄金町AIRに参加。幼少期から興味を持っていた日本文化から着想を得て、人間とテクノロジーや自然との結びつきを、映像やイラスト、デザインの手法を用いて探求する作品を制作している。フットウェアやウェアラブルテクノロジー関連の商品のデザインも行う。

主な展覧会に「Structural Surface」(ノリタケの森ギャラリー、愛知、2017年)、「Jan Jansen Shoe Treasures」(Rokin 75、オランダ、2017年)。



《NDE-14》2020年

ファン・ワンリン

HUANG Wan-Ling

【推薦】

推薦者：山野真悟(黄金町バザール・ディレクター)



1980年台北(台湾)生まれ、同地拠点。2005年国立台北芸術大学版画科卒業。2009年同大学大学院版画科修士課程修了。近年は主に「Meisho-E」シリーズを展開しており、パノラマの視点の消失点とフレームとの関係性を追求し、非眼視構造の絵画を構築している。異なる素材の紙を貼り付けたり、コラージュしたり、重ね合わせたりすることで、絵画のフレームの型にはまらない空間を作り出し、紙の違いによって異なる時間と空間を想像させる。

主な展覧会に「Breath of Sensation II」(Hong-gal Museum、台北、台湾、2020年)、「Landscape of Sen-Tai-Wan」(Gallery TURNAROUND、仙台、2019年)。



《Urashima Tarou》2019年

ジョナガミ ラボ

Johnagami Lab

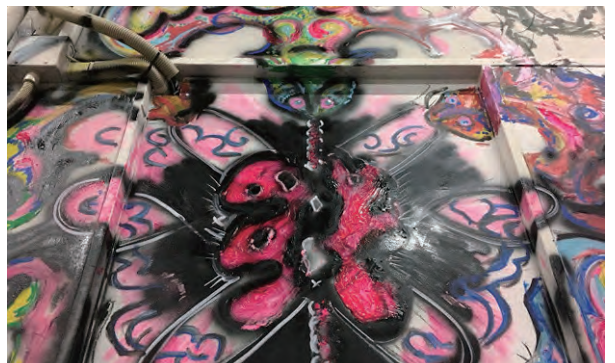
【黄金町 AIR】



Photo : Yasuyuki Kasagi

「アート & デザイン」をテーマにして、固有の文化や表現方法に縛られない創作を行う夫婦ユニットとして活動を開始。2018年より黄金町AIRに参加。メンバーである山上大輔は、自身の精神的な移ろいを背景として、絵画、イラストレーション、ドローイング、シルクスクリーン、横振り刺繍、彫刻といった、異なる表現の技法を実験的に組み合わせて作品を制作し、サラ・キャサリン・ジョンソンは様々な方法を用いて作品と鑑賞者を繋げていく。

主な展覧会に「Food Art Station "素材への感性"」(日の出町フードホール、横浜、2021年)、「黄金町バザール2020 - アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020年)。

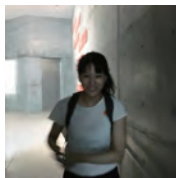


《Just Bat Luck》2020年

神田茉莉乃

KANDA Marino

【黄金町 AIR】



1995 年神奈川県生まれ。2018 年武蔵野美術大学建築学科卒業、現在は東京藝術大学美術研究科彫刻専攻に所属。2020 年より黄金町 AIR に参加。陶土による造形から始まり、建築、彫刻を学ぶ。塑像、金属、油絵、映像、作品の図面制作などを行なっている。人々は何によって空間を認識するのか、また空間とはどのような要素によって成り立つのかという問いから着想し、空間の持つ性質そのものを表現する作品の制作を試みる。

主な展覧会に「虚実の塔」(bar 雨、東京、2021 年)、「黄金町パズール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020 年)。



《巡りゆく自立塔、孤立塔》2020 年

金子未弥

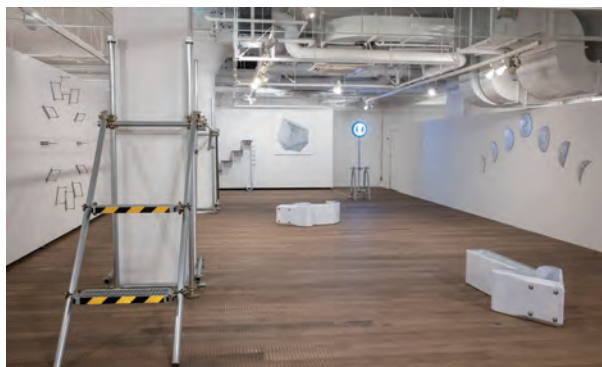
KANEKO Miya

【黄金町 AIR】



1989 年神奈川県生まれ。2017 年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士号(芸術)取得。2017 年より黄金町 AIR に参加。人々の場所に関する記憶から「都市の肖像」を導くプロジェクトや作品制作を行う。工業用資材を素材として用いたインスタレーションや、ワークショップを行って複数の参加者の記憶や経験を辿りながら見えない都市の姿を顕在化させる作品など、多様な手法で都市を追求した作品を発表している。

主な展覧会に「BankART U35 2021」(BankART KAIKO、横浜、2021 年)、「ラウンドテーブル 2020」(KOCA、東京、2021 年)。主な受賞歴に「Tokyo Midtown Award 2017」Grand Prize、「ART IN THE OFFICE 2018」。



《都市計画》2021 年

©BankART1929

片桐三佳

KATAGIRI Mika

【黄金町 AIR】



兵庫県生まれ。成安造形大学造形美術科洋画クラス卒業。2002～2007 年バルセロナ(スペイン)に滞在し、ラ・リョージュ美術学校で版画を学ぶ。2020 年より黄金町 AIR に参加。キャンバスに絵の具を垂らし偶然にできる色の染みを背景に、旅のメタファーとして舟を描く。時の流れ、空間の移動による自己と環境の関わりや変化をモチーフに、生への希求を表現している。

主な展覧会に「黄金町パズール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、神奈川、2020 年)、「patio lights」(patio-labo、神奈川、2019 年)。



《舟を漕ぐ人1》2021 年

キム・ガウン

KIM Gaeun

【黄金町 AIR】



1987 年ソウル(韓国)生まれ。2013 年韓国芸術総合学校建築学部卒業。2019 年より黄金町 AIR に参加。「世界とのコミュニケーション」をコンセプトとして、繊細で細やかな筆致でペン画を制作する。2017 年に絵本『君は僕のプレゼント!』を出版するなど、画家だけでなく、絵本作家、ジュエリーデザイナーなど多分野で活躍している。近年ではパブリックアートに興味を持ち、細かなペン画の技法で巨大な壁画制作にも取り組んでいる。主な展覧会に「ナミキアートプラス」(金沢シーサイドタウン、横浜、2021 年)、「You are my Gift」(黄金町エリア、横浜、2019 年)。



木下直人

KINOSHITA Naoto

【黄金町 AIR】



1970 年兵庫県生まれ。1998 年京都精華大学造形学科洋画コース卒業後、2006 年までバルセロナ（スペイン）に滞在。マッサーナ美術学校にて彫刻を学ぶ。2020 年より黄金町 AIR に参加。鉄や鉛、廃材等を素材に、自然と人間との距離感、文化の歪みをテーマとした立体やインスタレーションを展開している。

主な展覧会に「黄金町バザール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、神奈川、2020 年)、「patio lights」(patio-labo、神奈川、2019 年)。



《structure/landscape》2018 年

肥沼守

KOINUMA Mamoru

【黄金町 AIR】



1968 年神奈川県生まれ。1991 年多摩美術大学絵画科油画専攻を卒業後、イタリア旅行で見た中世フレスコ画に感銘を受け、同大学院でフレスコ画を研究する。2019 年より黄金町 AIR に参加。人物や動物のイメージに雲や星といったモチーフを配した、物語性のある幻想的な世界観をフレスコ画で表現している。近年では、フレスコ画以外の手法でパブリックスペースでの展示にも取り組んでいる。

主な展覧会に「雲をはこぶ日」(銀座光画廊、東京、2021 年)、「黄金町バザール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020 年)。



《雲をはこぶ日》2021 年

近あづき

KON Aduki

【黄金町 AIR】



1986 年千葉県生まれ。2010 年武蔵野美術大学空間演出デザイン学科ファッションコース卒業。2014 年より黄金町 AIR に参加。生家が洋裁教室だったことから布や糸がある環境で育ち、ソフトスカルプチャーを作り始める。制作と並行して、編み物技法を用いてのファッションブランドへの作品提供、サンプルや衣裳の制作を行っている。近年は、身体に不具合を得た経験から、空間と環境の影響を受けて形を変える事物に注目し、立体とインスタレーションを制作している。

主な展覧会に「atmosphere」(Gallery 蚕室、東京、2020 年)、「黄金町バザール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020 年)。



《bio topos》2020 年

オーウェン・ラオ

Owen LAW

【黄金町 AIR】



1992 年ストラスロイ(カナダ)生まれ。2018 年クーパー・ユニオン卒業。在学中に「Bullshit.systems」というグループの主要メンバーとして、アートやアクティビズム、スペクタクルを用いて、自分たちの学校が授業料のかからない自由な場所から近代的な大学へと変化していったことに関わり合い、争う学生たちとコラボレーションを行った。このグループは、第 78 回ホイットニー・ビエンナーレ(ホイットニー美術館、ニューヨーク、米国、2017 年)に参加したほか、授業やブロックパーティ、コミュニティサミットなどを独自に企画した。2019 年より黄金町 AIR に参加。平面や彫刻作品の多くは銅を素材として使用し、「階段」、「接続性」、「失敗」、「思索」といったコンセプトに関係する作品を制作している。主な展覧会に「Glad Tidings」(黄金町エリア、横浜、2021 年)、「黄金町バザール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020 年)。



《階段の印象》2019 年

増山士郎

MASUYAMA Shiro

【公募】



1971 年東京都生まれ、神奈川県川崎市出身。世界中のアーティスト・イン・レジデンスを渡り歩いた後、2010 年より紛争地帯として知られる北アイルランドのベルファストで唯一の在住日本人アーティストとして活動している。建築出身のバックグラウンドを利用し、人々や社会と関わるプロジェクト、いわゆるソーシャリー・エンゲイジド・アートを実践している。

主な展覧会に、「札幌国際芸術祭 2020 Of Roots and Clouds：ここで生きようとする」（北海道、2020 年）※新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止、個展「共生」（アイルランド国立フォークシアター、アイルランド、2019 年）。



《新スタイル酒処「ひとりぼっち」》2004 年

Photo：大泉憲彦

宮内由梨

MIAUCHI Yuri

【黄金町 AIR】



1988 年長野県生まれ。2011 年京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科卒業。2019 年より黄金町 AIR に参加。ふいに陥る「一時停止」状態へ関心を寄せる。生きる中で幾度も訪れる喪失、痛み、麻痺に形を与え、複数の視点から解釈する途を拓く試みを行う。近年は樹脂、金属、音などを多層的に組み合わせたインスタレーションを発表している。

主な展覧会に「ショーケースギャラリー 宮内由梨展」（横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜、2020 年）、「水と土の芸術祭 2018」（清五郎潟、新潟、2018 年）。



《WHERE HAVE YOU GONE?》2015 年

Photo：James A. Holland

三ツ山一志

MITSUYAMA Kazushi

【黄金町 AIR】



1953 年神奈川県生まれ。1976 年東海大学教養学部芸術学科卒業。横浜美術館副館長、横浜市民ギャラリーあざみ野館長、横浜市民ギャラリー館長を歴任し、2019 年退職。2019 年より黄金町 AIR に参加。同年、アートの活動を通して子どもたちの自立心を養う場として「子どもの育ちのためのアートらぼ」を設立。ライフワークとして、造形活動が子どもの心身の発達にどのように生かされるのかについて研究を行っている。黄金町での AIR 参加で見つけた風景を観察し、主に木を素材とした彫刻作品を制作している。主な展覧会に「黄金町バザール 2020 - アーティストとコミュニティ 第一部」（黄金町エリア、横浜、2020 年）、「2019 年度黄金町 AIR プログラム成果展 ROADSIDE PICNIC」（黄金町エリア、横浜、2020 年）。



《Hide and seek - 踊るひと》2020 年

水辺荘

Mizubeso

【黄金町 AIR】



「これからどうなる横浜」まちづくり研究会（BankART1929 主催）において「水辺」をテーマに集った仲間によって、横浜・桜枝橋を拠点に大岡川及びみなとみらいの運河を、利活用してゆくことを目標に 2012 年設立。当初より手軽に水面利用ができる SUP を活用し、街の水辺を活用したライフスタイルの実践を楽しむサードプレイスを運営。コロナ禍では水辺カウンターシステム「mizubebars」を発案。



《mizube bar》2020 年

ジョリーン・モク

Jolene MOK

【推薦】

推薦者：LUXELAKES-A4 Art Museum



1984年イギリス領当時の香港生まれ、ワルシャワ（ポーランド）拠点。2013年デューク大学大学院実験&ドキュメンタリー・アート修士課程修了。主に映像とセルロイドの実験映画を制作している。2006年以降世界中で作品展示を行い、2011年からは各国のアーティスト・レジデンス・プログラムに参加し、さまざまな土地への旅を続けながら作品を発表している。2015年にはアジア・カルチュラル・カウンシルからジャッキー・チェン基金フェローシップを受賞。2020年にはPara Siteの助成を受けた。主な展覧会に「Big Wind Blows」(Rossi & Rossi、香港、2020年)、「M(O)TION」(青森公立大学 国際芸術センター青森、青森、2018年)。



《Nature always finds a way (to tell me what to do)》2019年

スザンヌ・ムーニー

Suzanne MOONEY

【黄金町 AIR】



1979年ダブリン（アイルランド）生まれ。2005年アイルランド国立美術大学修士課程卒業。2014年多摩美術大学大学院博士後期課程修了。2015年より黄金町 AIRに参加。ビジュアルアーツの景観的表現を使うことによって、我々の住んでいる空間におけるグローバル化や都市化、技術の急速な発展の問題を反映して提示する。近年では古典的な写真技法を用いた表現にも取り組んでいる。主な展覧会に「Out of Time and Place」(The Container、東京、2020年)、「THE BRIGHT LIGHTS」(LAUNCH PAD GALLERY、横浜、2018年)。



《ディル # 01》2021年

岡田光生

OKADA Mitsuo

【黄金町 AIR】



Photo: Ujin Matsuo

1971年静岡県生まれ。1994年多摩美術大学絵画科卒業。1997年 Maryland Institute College of Art (USA) でMFA取得。2014年より黄金町 AIRに参加。作家自身の価値判断を超越したものや、出会ったことのない作品に遭遇したいという欲求を制作の原動力として、プランや目的を設定せずに作品を制作している。キャンバスや木板に写真で撮影した像を描き、その上から絵の具を擦り付ける、あるいは削り取るといった多様な技法を用いて絵画を描く。近年では音楽活動も行なっている。主な展覧会に「Stranger Than Painting」(黄金町エリア、横浜、2021年)、「黄金町バザール 2020 - アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020年)。



《無題》2016年

RED Profile

RED Profile

【黄金町 AIR】



嶋山文香によるファッションブランド。1986年神奈川県生まれ。2009年武蔵野美術大学空間演出デザイン学科ファッションコース卒業。2009年よりファッションブランド「RED Profile」としての活動を始める。2012年より黄金町 AIRに参加。年2回のコレクション発表を中心に、主にレディスウェアを制作している。デザインから縫製まで全ての工程がデザイナー自身の手によって作られる洋服は、シンプルな形に落とし込みながらも、細部まで丁寧で細やかな表現が行き渡っている。



《2021-22AW collection c・u・d・l・e》2021年

ミティ・ルアंकリタヤー

Miti RUANGKRITYA

【推薦】

推薦者：スッティラット・スバパリンヤ
(チェンマイ・アート・カンパセーション)



Photo: Andras Bartok



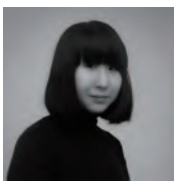
《Room no.2, Untitled (#01)》2020 年

1981 年バンコク（タイ）生まれ、チェンマイとバンコク（タイ）拠点。映像、テキスト、出版物などを用いて、「都市」の概念を考察する写真を制作している。政治的な激変や生態系の変化、転居、経済的不平等などのテーマを含み、日常的な観察に対する彼の個人的な反応は、現代の生活における都市の緊急性を伝えている。また、従来のデジタル写真やフィルム写真を超えたメディアを活用することで、視覚的な経験によって定義される世界におけるイメージの生成、提示、消費の性質を解明する。主な展覧会に「The Happiest Place on Earth - Hotel Asia Project」(熊本市現代美術館、熊本、2021 年)、「Long March Project: The Deficit Faction」(Long March Space、北京、中国、2019 年)。

志村 茉那美

SHIMURA Manami

【公募】



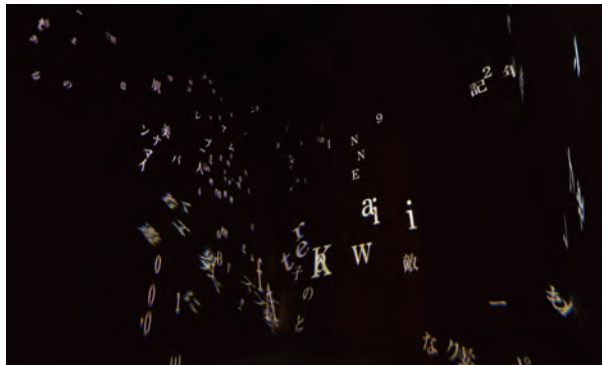
《見えない川を辿る》2020 年

1995 年宮城県生まれ、東京都拠点。2021 年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了。各地に伝わる民話や史実についてのリサーチをもとに CG を用いた映像作品を制作。娯楽性やユーモアが内包する持続可能性に着目し、疲労を伴わないかたちであらゆる社会問題の背景にある構造の対象化を試みている。主な展覧会に「表層と深層 | Surface and Depths」(Gallery PARC、京都、2020 年)、「GEIDAI BIBLIOSCAPE 2019」(東京藝術大学附属図書館、東京、2019 年)。

studio wo

studio wo

【黄金町 AIR】



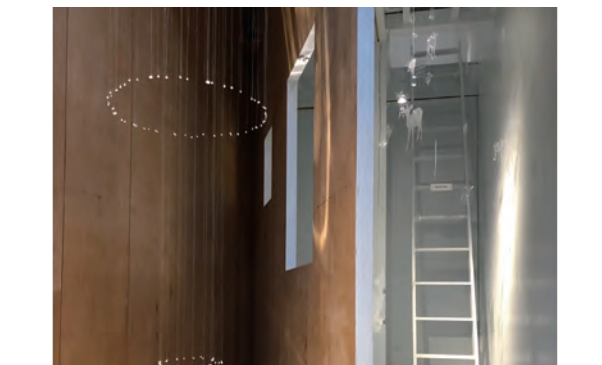
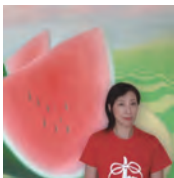
《言葉を集めて。》2020 年

1990 年愛知県生まれ。2014 年名古屋芸術大学美術学科版画コース卒業。2017 年東京ビジュアルアーツ写真学科ドキュメンタリーコース卒業。2019 年より黄金町 AIR に参加。写真作品の制作、写真の調査、美術作品の記録撮影などを中心に活動している。写真の持つ化学的・物質的な特性を制作課程に取り込み、四辺の内にあるイメージにだけに依らない写真表現の可能性を拡張する表現を行う。主な展覧会に「ジャケットを脱いで」(GALLERY KTO、東京、2021 年)、「黄金町バザール 2020 - アーティストとコミュニティ 第一部」(黄金町エリア、横浜、2020 年)。

SUZUKIMI

SUZUKIMI

【黄金町 AIR】



《ときのしずく》2020 年

愛知県生まれ。女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒業。1992 年パリ第 4 大学現代美術史講座を聴講生として受講。2019 年より黄金町 AIR に参加。商品として購入されたのちに人々に不要とされた食品の包装材といった廃棄物を観察して作品の素材として扱い、解体したり組み合わせたりしながら、植物や動物をモチーフとした絵画やインスタレーションを制作している。人間以外の生命の目線を通して地球環境について想いを巡らせ、現代社会に生きる人間の過剰で早い消費活動に対する違和感を投げかける。主な展覧会に「第 55 回 神奈川県美術展」(神奈川県民ホールギャラリー、横浜、2019 年)、「はならあと 2018」(橿原市今井町、奈良、2018 年)。

寺島大介

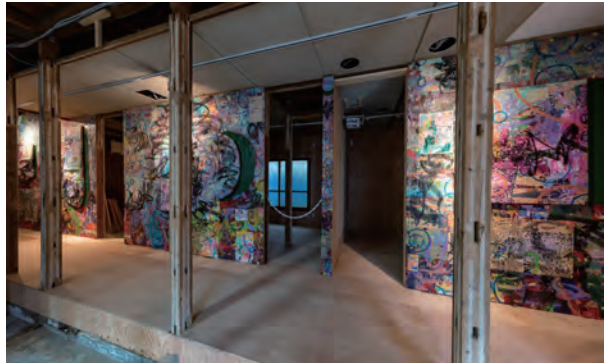
TERASHIMA Daisuke

【黄金町 AIR】



1981年愛知県生まれ。2005年ウィンブルドン・スクール・オブ・アート彫刻科卒業。2019年より黄金町 AIRに参加。マーカー、スタンプ、鉛筆、ペン、インク、絵具等を用い、素材の劣化や変化を抱えながら終わりの見えない制作過程のなかで生まれる深みと平面性の間に生まれる緊張感を作品にこめて制作を行なっている。絵画の画面に残される筆致や作品が置かれる状況によって、場の持つ歴史と時間の流れを表現する。

主な展覧会に「ライトビトウィーンソイル」(アートメルティングポット、ソウル (韓国)、2020年)、「第10回タグポートアワード」(IID 世田谷ものづくり学校、東京、2015年)。



《無題》2020年
Photo : Ujin Matsuo

照沼敦朗

TERUNUMA Atsuro

【公募】



1983年千葉県生まれ、埼玉県拠点。2007年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。同年、映像プロダクション会社に就職、2008年に離職し制作に専念する。作家自身が生まれつき弱視であることから、視覚そのものや、見える／見えないこと、それに伴った社会風刺、人間の内面、思想、夢などを、絵画や立体、アニメーションやインスタレーションとして発表している。

主な展覧会に「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.08 / 社会を解剖する」(高松市美術館、香川、2019年)、「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2018」(六甲高山植物園、兵庫、2018年)。



「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.08」展示風景、2019年

トモトシ

tomotosi

【公募】



1983年山口県生まれ、東京都拠点。2006年に豊橋技術科学大学建設工学課程を卒業後10年にわたって建築設計・都市計画に携わる。2014年より映像インスタレーション作品を発表。「人の動きを意識的に変化させる」ことをテーマに、都市空間を舞台として制作している。2020年より東京都・西荻窪にトモ都市美術館(現 TOMO 都市美術館)の企画・運営を行う。

主な展覧会に「ミッシング・サン (芸術競技 2021)」(代々木 TOH、東京、2021年)、「有酸素ナンパ」(埼玉県立近代美術館、埼玉、2019年)。



「ミッシング・サン (芸術競技 2021)」展示風景、2021年
Photo : コムラマイ

常木理早

TSUNEGI Risa

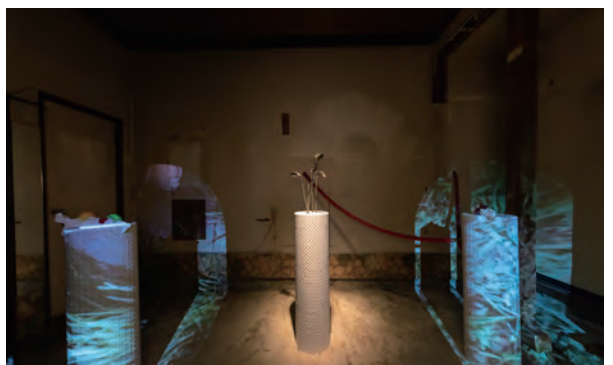
【黄金町 AIR】



Photo : Yusuke Yamatani

1982年群馬県生まれ。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインにて絵画を学び、2009年グラスゴー芸術学校にてMFAを修了。2018年より黄金町 AIRに参加。絵画の陰影や形の重なりによる奥行きと素材そのものへの興味から、現在では、形、重さ、重力、空間を分割する作品のあり方を探るため、主に立体作品を制作している。物質の機能と意味が置かれる状況や人間の捉え方によって変化することをインスタレーションで体感させる。

主な展覧会に「庭の向こう側 - 手がかり」(Space Ppong、光州、韓国、2021年)、「ABSENCE」(TOKYO QUARANTINE online、2020年)。



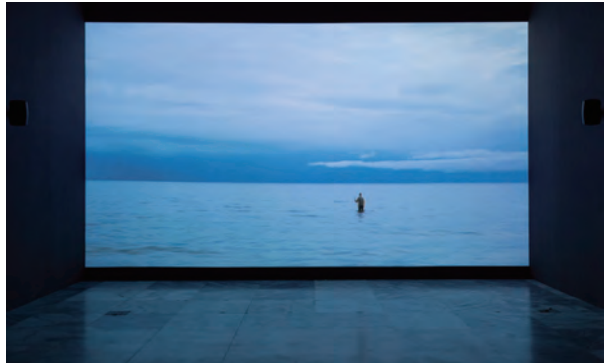
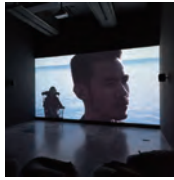
《ソックス イン ランチボックス》2019年
Photo : Ujin Matsuo

ワン・ヤオイー

WANG Yao-Yi

【推薦】

推薦者：小林麻衣子（黄金町バザール・キュレーター）



《二匹の虎》2020 年

photo: Taipei Fine Art Museum

山本千愛

YAMAMOTO Chiaki

【公募】



1995 年群馬県生まれ。2018 年群馬大学教育学部美術専攻卒業。2016 年より「12 フィートの木材を持ってあるく」というプロジェクトを開始。個人的な事柄や社会情勢に巻き込まれたり、通りがかりの人の協力を得たり、作者本人の想定し得ないエラーに直面したことを基に、生きること・移動すること自体が作品化されていく。現在は群馬県から歩いて山口県にたどり着き、山口県在住。

主な展覧会に「群馬青年ビエンナーレ 2021」（群馬県立近代美術館、群馬、2021 年）、「Street Museum 2021」（東京ミッドタウン、東京、2021 年）。



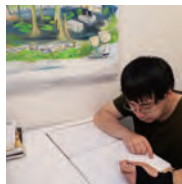
《西へ 行くこと／戻ること》2021 年

Photo：水津拓海

安田拓郎

YASUDA Takuro

【黄金町 AIR】



1987 年東京都生まれ。2010 年北里大学理学部物理学科卒業。在学中に独学で絵画の制作を始める。2018 年より黄金町 AIR に参加。自身の体験を「冬眠への意志」、「ディオニュソスの陶酔」といったキーワードから分析し、「自分と他人」「こころと部屋」をテーマに、絵画や立体、インスタレーションを制作する。主な関心領域はユング心理学。「他人」や「匿名性」のメタファーとして、クマのぬいぐるみを絵画に登場させる。

主な展覧会に「R16 studio open studio」（BankART、横浜、2019 年）、「自分一人の部屋」（マツダホーム、横浜、2018 年）。



《道徳の系譜》2018 年

吉本直紀

YOSHIMOTO Naoki

【黄金町 AIR】



東京都生まれ。2013 年より黄金町 AIR に参加。2015 年「横浜市・成都市 AIR 交流事業」により成都（中国）で滞在制作を 2 か月間行って制作された映画「変異之夢」を発表した。映画を主軸として、実験映画、ドラマ、ドキュメンタリー、パフォーマンス、演劇、ビデオインスタレーションといった幅広い映像表現の可能性を追求し、映画・映像作家として活動している。

主な展覧会に「黄金町バザール 2020 -アーティストとコミュニティ 第一部」（黄金町エリア、横浜、2020 年）、「黄金町バザール 2019 -ニューメナジェリー」（黄金町エリア、横浜、2019 年）。



《コノ町でみたいいくつかのシンゴウ》2020 年

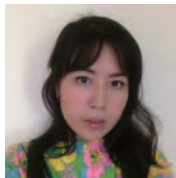
Photo：Yasuyuki Kasagi

エヴァ・ユウ

Ev YU

【推薦】

推薦者：平野真弓（Load na Dito 主宰、キュレーター）



1980 年マニラ（フィリピン）生まれ、同地拠点。2012 年デ・ラ・サール大学聖ベニルド校卒業。漫画を読むこと、ショートフィルムを見ること、そして ZINE を作ることを好み、制作する ZINE のほとんどは個人的な人生の出来事や記憶に影響を受けている。小さなビンテージショップを経営し、友人の ZINE のライブラリーとスペースを共有し、フェアや展覧会を開催している。2015 年からギャラリーで水彩作品の展示を始めた。

主な展覧会に「Squares Running in Circles」(West Gallery、マニラ、フィリピン、2020 年)、「Constant Variables」(オンラインによる展示、マニラ、フィリピン、2020 年)。



《Valuable Inconsistencies》2020 年